

午後2時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。通告に従いまして、南部地域の振興策について、市長並びに教育長にお伺いをいたします。

1点目は、旧豆敷支所跡、これは住民センターを含みますが、南部地域の拠点として活用できないか。

2点目は、乱川上に離合場所の設置はできないか。

3点目は、空き家の活用策について。

4点目は、バス停に待合所の設置はできないかであります。

御承知のように対馬は、南北に82キロ、東西に18キロと日本列島の縮図のような島であります。

現在の島の構図を見てみますと、韓国からの観光客の増加に伴い、まず中心は城下町である厳原を拠点とした首都機能の充実を図っていると思われれます。宗家墓所、金石城跡、清水山城跡と3つに国指定史跡を中心に現在（仮称）観光交流センターの建設が着工し、来年4月にオープン予定であり、また県立資料館の建設の協議が進められており、また厳原市街地の大通りと川端通りを結ぶ横町線の計画、あるいは市街地の国道の改良等も進められております。旧厳原町時代からの懸案事項でありました佐須坂トンネルも平成28年春には開通予定であります。このトンネルの開通により、佐須地区の活性化に大きくつながると思われれます。

また美津島町では、新病院の建設も急ピッチで進められており、来年5月オープン予定であり、また大型店舗の進出も続いております。

一方、北の玄関口である比田勝地区でも、国内航路のターミナルも完成し、本年度は国際ターミナルの建設も始まっております。

南の玄関口厳原港と北の玄関口比田勝港は、国道382号線につながっており、国道、県道の改良工事も進められておりますが、まだまだ未改良のところも多々ありますが、順次計画はなされていると聞いております。

そこで、厳原以南のほうを見てみますと、県道、瀬浦厳原港線の改良も内山坂トンネルの開通により、利便性もだいぶよくなってまいりましたが、まだまだ未改良のところが多く、早急なる改良が望まれます。

このような状況の中で、南部地域の豆敷地区が取り残された地域のような感がいたしますが、市長はどう思われるかお聞きをしておきたいと思っております。豆敷地区は、昭和32、3年ごろは、3,000人近くの人口であったと聞いておりますが、現在では人口800人程度に減少し、所

帯数は4 1 6世帯、高齢者率は4 3%になっております。

しかしながらこの地域は、日本のルーツが秘められた地域であり、歴史、民俗、風習と他に類を見ない貴重な文化遺産の宝庫であります。このような地域を後世に継承していくのが我々の責務だと思っております。

そこで、1点目の旧豆殿支所跡、これは住民センターを含みますが、南部地域の拠点として位置づけ、地域内に残る文化、民俗、風習等の資料並び近年仏像の盗難等もあり、文化財の管理も徹底しなければならないと思っております。多久頭魂神社に保管されている国、県指定の文化財を展示できる資料館及び道の駅的な地場産品が販売できる施設としての活用ができないかお伺いをいたします。

また、地域内を観光するには、観光バスの乗り入れが不可欠だと思っておりますが、道路が狭く離合する場所が必要であり、乱川上に二、三カ所程度離合する場所の設置ができないか、これもお伺いをいたします。

次に、空き家の活用策であります。現在地域内には百数十軒の空き家が点在しておりますが、島おこし協働隊の活用はできないか、これもお伺いをいたします。

次に、バス停に待合所の設置はできないかあります。地域内には3カ所のバス停がありますが、3カ所とも待合所がなく、雨または冬場は特に高齢者の方々はつらい思いをしてバスを待っている状況であります。来年5月から病院も美津島まで行かなくてはならず、高齢者の方々に配慮をした待合所の設置ができないかお伺いをいたします。

以上4点、市長並びに教育長にお伺いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 船越議員の御質問にお答えをいたします。

まず第1点目が教育委員会文化財の関係でございます。

旧豆殿支所跡を豆殿地区の文化財をまとめて展示する資料館として活用することについての御質問です。

御承知のように、豆殿地区は対馬の中でも特に多くの指定文化財を有している地区であります。主藤家住宅などの重要文化財が3件、国指定天然記念物である龍良山原始林、一部が盗難被害に遭った多久頭魂神社大蔵経など県指定文化財が3件、保床山古墳など市指定文化財が3件、さらに亀卜習俗と赤米行事が国選択の無形民俗文化財であり、まさに文化財の宝庫と言える地区であります。

文化財の保管場所については、当然所有者の意向が尊重されるべきであり、その承諾なしでは保管場所を変更することはできません。保管場所を決めるにあたっては、所有者や地区の事情、防犯や防災対策の状況、緊急時の体制等いろいろな面からの検討が必要であろうと考えます。

御提案のように、地元の文化財を地元で集中的に管理していくという方法も選択肢の1つであろうと思いますが、全体的な考え方として重要なものについては、既存の資料館や新たに計画中の博物館での活用等も含め、一括管理という方法の検討も必要ではないかと思っております。

ただ、御提案のあったように、旧豆殿支所の活用を考える上で、地域マネージャー制度に基づく地域づくり計画等により、例えば赤米行事に関するものや亀卜習俗に関するもの等、住民の皆さんで資料展示を検討するようであれば、できる限り協力をさせていただきたいと思っております。いずれにいたしましても、所有者や地区の皆さんとの協議が重要であると考えております。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 船越議員の質問に答えさせていただきます。

文化財をまとめて展示できる施設及び道の駅的なというふうなお話がありました。この道の駅的な、地場製品の販売ができる施設についてでございますけれども、現在旧豆殿小学校前の県道脇に、民間の方によって産直の駅と銘打って、出店運営がされ、地元でとれた野菜とかみかんとか果実類、さまざまな地場製品が販売をされております。

また、この豆殿地区では交流人口の拡大と人が集う活気ある集落づくりを目指すために、地場製品を取り扱う朝市開設の検討なども今なされているようでございます。議員御提案の地場産品直売所の設置については、地域の活性化、交流人口の拡大に大きく寄与するものであり、市としても支援をしなければならぬというふうに思っているところでございますが、現在既に動き出している、あるいは動き出そうとしている地域や民間の方々の方々の活動を見守りつつ、必要に応じて行政として支援をしてまいりたいというふうに考えております。

次に、乱川に離合場所の設置はできないかと、大型バスの乗り入れがどうしても今後不可欠である、そのためにも離合する場所がないために、乗り入れが難しい状況になっておるのではないかというふうな御趣旨のお話でございました。

旧豆殿出張所跡を南部地域活性化の拠点として活用した場合、大型バスの乗り入れが予想され、大型バスの回転等が出張所跡の駐車場では狭いため、乱川部分のほうに張り出して離合場所を設置をし、大型バスの回転等が円滑に行えるようにするものと、そういう御趣旨だと理解をしております。

この場合の離合場所の設置につきましては、乱川左岸部分が主要地方道の道路護岸となっており、そういう関係上、振興局へ協議が必要であります。旧豆殿出張所の跡地利用が決定すればその利用形態に応じ、関係機関と調整をできる案件だというふうには思っております。

次に、次の御質問で空き家の問題がございました。確かに島内で997——24年度調べでございますが——空き家があると、豆殿地区にも40件あるというふうに調査結果は出ております。

この空き家対策というのが大変難しい問題ではございますが、今議員がおっしゃられました、

島おこし協働隊を活用してできないかという御趣旨が、ちょっとこちらのほうもどのような意味合いを人呼び込んで、どのような展開のお話なのかなというイメージがちょっと湧かなかったものですから、大変申しわけございませんが、席に着いたときに、はい、説明をしていただければと思います。それに応じて答えさせていただければと思います。

4点目のバス停の待合所の設置の問題でございます。

これにつきましては、1日4便2往復運行をこの豆酩地区内においてはされております。豆酩地区内のバス停につきましては、旧小学校前、旧豆酩出張所前、そして豆酩の3カ所ございまして、路線バス用の待合所は設置されていない状況であります。豆酩小学校前にスクールバスの待合所があり、路線バスの待合所としても兼用させていただいているところでございます。

市といたしましては、合併前に各町で整備された待合所につきましては、災害時等の緊急的な待合所の補修は行っておりますが、市営バス路線を除き新設につきましては、運行事業者としてのサービスの観点から、対馬交通のほうに設置していただくことを基本的な考えとして今思っております。

現在、市の地域公共交通の活性化協議会におきまして、バス路線等の再編計画というものを作成をし、島内における公共交通体系の見直しを行う予定でございます。この再編計画によりまして、バス路線の見直し等も行うこととしており、方向性ができた中で今おっしゃられましたバス待合所につきましては、対馬交通とも協議を、あらためて全体協議をさせていただきながら、市としてどう取り組んでいくのかということを考えていきたいというふうに思っておりますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

なお、この路線バスにつきましては、自由乗降区間というものの設定があります。逆に対馬においては禁止区間が少のうございますというか、豆酩地区においては、この自由乗降、路線に出て来た場合の路線の中に出て来た場合の自由乗降っていうのが可能であります。これらのことをしっかりと周知をしながら、利用者の方たちにとっての利便というものを高めていくようにしなければいけないと、改めて御質問を受けて感じておるところでございます。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） この豆酩地区南部地域の振興策について私は2回目なんです。

1回目は、農道から多久頭魂神社の裏の農道から多久頭魂神社の横の道路の拡幅をやって、そして多久頭魂神社の前の駐車場をつくってそこに公衆トイレはできないかという質問をさせていただいた経緯がございます。その回答もまだまだ進捗状況はどうなってるかっていうのは返答いただけてませんので、どのようになってるかわかりませんが、要はそういうことの返答がくることによって、我々も次の展開というのを考えるわけですが、全く来ない中ですと次の展開をやっぱ

り考えんといかん。そうすると先ほど言いましたように、巖原から比田勝までは国道でつながってますから、ここはずっと栄えていくんです。巖原は特に今いろいろな事業やってます。ところが先ほど言いましたように、南部地域というのは、なんか取り残されたような感じがするんです。私はすごいする。そう思うんです。ですから、南部地域の振興策がどうしても考えてもらわなかんというなことで、今回の質問をさせていただくわけですが、やはりその南部地域を活性化するには、大型バスの乗り入れというのはこれは不可欠ですよ。この前のときも私もバスの乗り入れができるということ、多久頭魂神社の前に駐車場とめてそこに公衆トイレつくってやったらどうかという話もしました。ところが何の返答も来ません。なってくると、今度はまちの中にバスを持って行って、そこでそういう道の駅的なものもやりながら、地域のそのの産品も出してもらうて、そしてそこで活性化を図らないかんのじゃないかな、そういう発想に今回入ったわけです。

やはり先ほど市長の話では、県道沿いですから県との協議もいるでしょう。しかし考えてみますと、あそこに大型バスを入んことには豆殿は栄えません。地域の中が。今は観光バスが行きよるのは、美女塚を通過して尾崎山のほうに行くんです。そうすると、そこからこちらには来んわけですから、地域の中入って来んわけでしょ。そうすると地域が栄えません。だからそれをしようということで、私もいろいろ考えるんですが、この前の話もまだまだそこまで行ってませんので、今回は今旧住民センターあそこが空いてますよね。ですからそこを有効利用して先ほど教育長にもお話をしましたが、その中に資料館たるものをつくって、観光客もそこに来れば、多久頭魂神社の中にある国宝級の金庫あるいは県指定の大蔵経、そういうもんもそこで見れる、この地域というのはすごい地域やなというのが感じられると思うんです。そういう地域なはずなんです、豆殿っていうところは。教育長が先ほど説明してましたから言いませんが、そういうところの宝庫なんです。それをそういうふうなものがたくさんあるのに、活用しきらん、されてないというのが私は悔しい。何とかこれを活力を増すには、そういうことがいるでしょう。それには市長、私はそこを何とかバスが入るようにして、そこでひとつバスがとまって、そこでそこから皆さんが金剛院でも主藤家住宅でも行ける多久頭魂のほうも行ける、そこにもトイレがあります。そこでゆっくりしてください、その間に道の駅的なことでやってそこで産品を買っていただく。みかんもちょうど今から12月ですから、今からみかんがおいしくなりますよ。そういうもんもそこで出していただくということによって、その地域が変わっていくんじゃないですかということ、私は言いよる。

今先ほど言いました1点目、2点目はこれつながってますから、同じように私も質問していきますが、大体そういう発想で私も今市長並びに教育長にお願いしとるわけですから。私がこう、私だけかもわかりませんが、どうも南の南部地域というのは取り残されとるという感じが私はす

るんですが、市長はどう思いますか。私はそう思うんです。だからどんどん向こうは、ばんばん物を建っていくが、自分こちらのほうになってくると何もないよと、こうやってくださいというてもそれも通じません。これじゃね、やっぱり段々衰退していきます。

だから、1点目2点目はまとめて今話をしていますから、そこら辺のことで。教育長、今言われることは確かにその地域マネージャーもおりますから、地域マネージャーといろいろ話もせないかんでしょうが、要は今盗難事件が頻発していますね。こういうこと考えると、やはりそういうのをしっかりそういうところに納めて、今資料館、今度博物館のところに持って行ったらどうかというような話もありますが、私はその地域にその品物が今までずっとあった品物ですから、そこでなからんとだめ。そこにお客さんを呼び込んで来ないかん。博物館に呼んでくる資料はたくさんある。

ところがその地域にある宝をそこで見せんことにはお客さん来ません。もう1つ、大蔵経っていうのありますよね、県指定の。これは経典だと思いますが、あれは1年に1回ぐらい虫干しせないかんです。やっていますかね。今あそこの倉庫の中に入ってるんですが、倉庫の中に。あれも屋根をちょっとはぐられてましたけど、この前。しかしやっぱりそういうふうなテレビカメラがついとるから安心ですよとそういう問題じゃない。あれは、虫干しをして、虫がつかんように1年に1回ぐらいやらんといかん。そうせんと腐ってしもうたら、虫が食われてしもうたらどうにもならんようになる品なんです。そういうこともやっていますかと。よろしく答弁お願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 豆殿における文化財っていう位置づけ、10を超える十二、三の文化財指定がああ地区にまとまってあるという、まさに民俗学的な観点からいって宝庫なんだということは、もう以前からずっと言われ続けている。取り残されてるんじゃないかというふうに船越議員はおっしゃられました。逆に地域のほうからあれだけのおっきな集落です。やはり集落が一体となつての動き出しというのも私は必要な時期になったんじゃないかなと思ってますし、こちらのほうからの動き出しとして、そういう地域マネージャーっていう制度を入れ込みながら、その一体感というのをつくっていくことをやっているつもりでございます。

その何回も話し合いはマネージャーもしてくれてると思います。地域の出身の人間ですから、地域の実情もわかった上でやっておりますけども、そういう中、どのように地域づくり計画つくるかということで素案的なものもちよつと見させてはいただきました、以前。

先ほど朝市の開設なんかを豆殿でやってみようじゃないかという話もあります。実は先週も都会のほうから女性だけのツアーが豆殿に入り込んで来る、そして先ほどおっしゃられた、あそこが持っているみかんというもののみかん狩りをみんながされる、女性陣がついていうものが幾らでもあるわけですよ。そういう中での十二、三ある文化財の説明の仕方とか、ただ単に見せるだ

けではなく自分たちの集落の今までのきた歴史っていいですか、ほかとの違いとかいう部分を伝えていく語り部みたいなのも育てていかないといけないし、若干違う豆殿弁です、豆殿弁でやはり話していくこともすごく大事だというふうに思っています。

そういうそのあたりのつくり込みっていうのをまさに地域づくり計画の中に入れ込んでいく、そして今おっしゃられたように、そのときに人が入って来てももらわんばいかんけども、どのように車駐車させるとか、どう離合させる、どう回転させようか、どこに人を集め込んで、そこにどう多くの豆殿の人たちが絡んでいくのかいうことをまさに今つくってもらおうとしよるところであります。

私きょう、船越議員のほうからこの南部地区における、おっきな意味の振興策ということの御提案受けたわけですが、私自身も感じるところは一緒なんですけども、今この話を議員さんがおっしゃってある話というのも、豆殿の人たちも聞いてあると思います。また、うちの地域マネージャーも聞いてると思います、どこかで。そういうのをどのようにその地域づくり計画の中に入れ込んでくるかということ、私どもは地区の皆様にもお願いをしたい、私どももそちらに誘導をしていくっていうことが、すごく大切な今時期なんだろうと思っております。

そういう意味において、船越議員がああ宝庫である豆殿っていうところでの提案をしていただいているというのは、豆殿地区民にとっては、大変ありがたい話なんではないかなというふうに思っておりますし、自分どももそのことに向かって、豆殿の人たちと一緒に支援をしていきたいと思っております。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 先ほど管理について大丈夫かというお話でしたが、いろいろな事情があって詳しい具体的なことは言えませんけれども、適正に管理されていると認識をしております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） まず教育長からいきましょね。適正に管理してますか。大蔵経は年に1回虫干ししてますか。私はしてないと思う。それは適正って言わないんです。文化財をやはりそういうものを後世に残していこうっていうのは、教育委員会の文化財課っていうのは、後世にそういうな虫がついてぼろぼろになったら後世には伝えられんわ。そうなる前にそういう管理というのはしっかりしとかなないと、文化財というのは。私はそう基本的にはそうだろうと思う。それは特に多久頭魂神社のところの大蔵経が入ってる小屋なんかっていうのは、夜なんか誰もおりません。昼でもそんな行かんわけですから。そういうところに置いとけば、例えテレビカメラをつけてますから大丈夫ですよと言うたものの、この前みたいな韓国人が来て、誰もおらんっていうことになると持って行こうと思えばすぐ持って行けますよ。テレビのあたりもペタンと何か張っとけば映らんわけですから。

だからそういうことする人は知恵がついとるんです。だから大丈夫、大丈夫っていうことじゃない。だからそういうことも含めて、やはりそういうところにせっかく住民センターも空いてますので、そういうところに展示をして、資料館的なものをつくって、しっかり管理したらどうかということを提言をしとるわけです。

それと市長、先ほど島づくり協働隊、それ一緒に言いますから。要はその空き家が今百何十軒か、この前数えてもろたらありました。まさに今、先ほど私言いましたように、800人ぐらいしかもうおらんようになった。そこ中で高齢者率は43%です。半分は高齢者なんです。そういうところに、地域で何かやるからもう市も応援しますよって言うたって馬力がないです。だからそういうところにそういう協働隊の人たちが入っていただいて、そして違う感覚で物事の発想を組み立てていただいて、それで活力を生み出していくとそういう指導もやっぱり必要だろうと思うんです。

例えば今までずっと豆殿の人たちがいろんなことを考えるけども、俺たちはやっぱりこれくらいのことしか考え切らんぞと、こうがいいじゃないとかああがいいじゃないとかそんな話ばかりで終わってしまうと。ところが、違う観点から今言うたような史跡文化財がそんだけたくさんあるとこであれば、都会から入って来た人は、こういうのに有効利用しないかんいう発想が違うと思うんです。そういうのを引き込んでくださいと、そういう人たちに。空き家がそんだけあるわけですから、それに伴って空き家対策のいろんなアイデアが出てくると思うんです。それをそういうふうな利用の仕方、使い方をしていってもらえませんかということですね。

もう1つ待合所の件なんです、この前私、旧巖原町の、美津島町は旧町時代に待合所をたいていつくってるんです。ところが巖原町はあまりつくってない。旧巖原町の尾浦からずっと回って安神までずっと回って来たんです。待合所があるかないか。回ってきました。そうするとおもしろいことがあるんです。尾浦、安神なし、久和が1カ所あります。内院は2カ所バス停ありますが、1カ所あります。浅藻は1カ所ですがあります。豆殿は3カ所ですがありません。それから瀬は2カ所ですが2カ所とも待合所があります。内山も2カ所ですが2カ所とも待合所はあります。久根浜もあります1カ所ですけど、1カ所。久根田舎も1カ所あります。上槻も1カ所あります。それから椎根も1カ所あります。ところが小茂田方面はずっとないんです。阿連に1カ所ある。ずっと私回ってきたんです。1日かかりませんでしたけど。

やはりこれぐらいに地域の人たちがこっだけ高齢者がふえてくると、先ほど市長は今度病院が新病院ができるんで、やっぱりバスの体系の今組み直して、いろんな体系を組み直そうとしよると思うんですが、やはり高齢者がふえてくると、今すぐで言ったってそこ行きよったってけまつれるかもわからん。バスはそこにとまってくれるからいいぞとて言うたって、はあバスが来よるけどあわてて来よったらけまつれるかわからん。やはり、豆殿にでも1カ所ぐらいいますよ。

どうですか。1カ所ぐらい、そりゃ交通会社にも補助金というのは出とるわけですから、市の権限がないわけじゃない。特に安全・安心して暮らせる島づくりをするのであれば、そういう年寄りにも高齢者の方にも優しい島づくりもせないかん。そういうところに配慮した気持ちも私はいると思う。どうでしょう。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、全旧巖原を回って来ましてっていう話でございました。今、場所をこうないところあるところの話聞いてて思ったんですが、もしかすると中学校の拠点校っていいですか、そういうところに来る集落っていいですか、にバス停が待合所が用意されてるのかなど。逆にその拠点地域がバス停が欠落したのかなというふうに、今こう話を聞いてて思いました。それは、今までのことでございます。決してそれだからいいっていうものではありませんが、先ほど言いましたように、自由乗降っていうことで、路線のところまで出てくれば乗れることは乗れるんですね、これは。皆さんが皆さん、その路線の近くに家があるわけではない。確かにそこまでは出て来ないといけない問題、もしくは他人のっていうか親戚とかあるかもしれないけれども、人様の家の軒先を借りるみたいなこともやはり落ちつかない部分もあるかと思えます。そういう意味において、今3カ所、1カ所はスクールバスの待合所があります。3カ所がない状況でございます。どのような場所がほんとでいいのかっていうことと、今の元のセンターですね、センターの位置の使い方のお話もありました。建物の中の使い方と外の使い方あわせておっしゃられました。そのあたりも一緒にこれは、組み立てていかないとばらばらになってしまうも無駄になることも考えられます。

これ、このまま帰りまして、帰った後にマネージャーのほうに1回おろしてみます。今の言われた3点とかいうのをどのように組み立てていくか、今宿題を私は船越議員さんからもらいましたので、それについてはどういう形がいいかっていうことを、地域にも1回おろしてみたいと思いますのでどうかそれは先ほどの話ではありませんけれども、きちんと回答はしかるべきときに返したいと思いますので、御理解いただければと思います。（「いいですか、言わなくていい」「済みません、協働隊の話」と呼ぶ者あり）

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 協働隊のお話がありました。趣意書の中には空き家対策としての島おこし協働隊という表現になってる。空き家対策どのようにというふうなことがあったものですからお尋ねしたわけですが、趣旨はわかります。島おこし協働隊を募集をかける前に私ども部局、それぞれの部局のほうとかJAとかいろんな関係団体、公的団体のほうに一応おろして、どういうものがどういう使命をもった人が業務が求められているのかということこう拾い出ししてるんですけども、今の言われた部分については、地域とか地区のある意味問題っていうのを、地区まで

は正直言うて聞いてない状況でありました。全部におろしたとき大変なことが起こるっていうこともどっかであるのかもしれませんが、自分心の中に。

しかし、43%とかそういう数字まできてる地域、そして何十件も空き家が見受けられる、そしてたくさんの文化財とかいうものがある地域において、新しい知恵を入れることによって物事は変わるではないかという御提案を受けました。

今12月に入ってから募集はかけておりますけども、随時の募集も可能でありますので、今言われた部分について、組み立てを追加の組み立てっていいですか、それをちょっと内部でやる価値あることだというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ぜひですね、市長そういう発想のもとにあそこにあれだけのものがあるわけですから、じっとほったとくわけにもいきませんよと。だから私の提言があるんですが、「掘り起こせ活力、よみがえれふるさと」という言葉があるんですが、これは死んだ吉見県議が残した言葉なんですけども、私もその言葉大好きで、これ私もずっと使ってるんですけども、まさにそのとおりでと思うんです。活力を掘り出してくる、そして昔のみたいなそういう地域によみがえれふるさというぐらいに、やはりそういう環境づくりはしていかないかん、私はそう思う。

もう1つは、今先ほど言いましたが、美女塚茶屋があります。ここは尾崎山に続いておりますが、雷神社のとこに道路がありますがここは車は小さい車しか通れませんよね。そうすると美女塚茶屋のほうに入っていくとバスはもう回って来ると思うとまた回って来ないかん。あそこから1本県道のほうに豆殿のほうに向けて道路1本通したらどうですか。そうすると美女塚茶屋通ってそのままずっと来れる。部落のほうに入ってくる。わかりますか。美女塚茶屋にはトイレもあります、休憩するところもあります。そうするとそこからその道路から尾崎山に行く道路から途中から山、低い山のところ狙って道路1本県道に出して来る。そうすると部落のほうに入ってくるよと、地域の中に入ってくるだろう。そうするとあそこぐるっと回ってしまえる。そういうこともやっぱり考える必要があるんじゃないかなと思います。

先ほど島づくり協働隊のその方の話をしましたけど、やはり地域というのは地域マネージャーがいても、そこの古参の人たちとか長老の人たちとかそういう人たちとの話になると、お前は何かとと言われると、もうあんまり突っ込んで言いきらんごとなる、部落の人間ですからね。そうするとやっぱり違う血が入って来て、先ほど言うような、そういう血が入って来て、全体的にその地域のやつを全体的に見た中で提言をしていって、地域マネージャーと一緒にやっていく。そういう血は入れてかないかんと思う。そうせんとそこ変わりませんよ。なかなか変わるもんじゃない。そういうところに活用してほしい。言い出すときりがないんですけどね、まだまだ言いたいことたくさんあるんですけど、民宿っていうか民泊ありますよね。ああいうところも結構今人

気があって、都会からも来ていただいておりますよ。その人たちもやっぱり自分たちが車を運転してその人たちを連れて、ずっと対馬をずっと案内して回って、そして喜んで帰っていただいております、そういう状況もあるんです。だから、やろうと思えば、そういうこともそこででもできるでしょうし、対馬全島どこでもできると思うんですが、やはりそういうふうな発想も、若いそういう人たちに入ってきていただいて、違う感覚でその地域内を見ていただいて、そこの中でどうしたらこの地域がよくなっていくか、こういうアイデアをしっかりと出してもらうた中で、その地域の活性化を図っていく、振興策を図るということは、これは必要だろうと思う。だからぜひその点も含めて、考えてみてください。

それと先ほど言いました、乱川に離合場所の設置、これについてもぜひ検討してくださいよ。地域の中にバスを入れるようにしてください。そこをそうせんと、物事は先にずれません。部落の中にその地域の中に大型バスが入ってくれば、入るようになれば、物事は変わっていくんです。ところが組み立ててもらうて、その中で対応を考えましょうって言うたって、どちらが先かってこうなるんです。

だからできるところは行政がそうやってしっかりやった中でそしたら必ずついてきます。物事は開けていきますよ。そういうことも含めてしっかり担当部長も含めてしっかり市長も協議をしていただいて、南部地区の振興策については、るる私も言いましたけども、私が言いましたように何かちょっと取り残されたような感があるって言うのは私だけかもわからんが、私はそんな感があるんで。だから絶対どうしてもここは北と真ん中と南とこれだけはしっかり繁栄させないかん、活性化させないかん、真ん中と北だけがよくなってもいかん、南の端までも対馬というのはよくならんとだめなんです。そのだけの要素をみんな持つとるんですから。ぜひその点は取り組んでいただきたいと思います。最後に、今まで私もいろいろしゃべりましたけども、そこら辺のことで市長の意気込みをちょっとお聞かせください。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど民宿の話がありました。民宿の方も私そのツアーを見送りにジェットフォイルに行ったときも、見送りに行ったお客様は豆餠にたしか民宿に泊まれたと思っております。その方が次のお客様をジェットフォイルにお迎えに来てありました。このようにして豆餠の魅力とかいうのをわかって、伝えていってあると思います。きちんとして、発信を自らもされてると思います。そのあたりがどんどん広がっていけば、豆餠ってところの本来の価値っていうのがわかっていただけるはずだと思っておりますし、今の時期の豆餠みかんのすばらしさっていうのをたまたま一緒に来た王監督の娘さんの王理恵さんは、それこそ喜んで食べて持って帰ってありました。

こういうみかんっていうのが、佐世保の女性でしたけども、いやないと、県内にもこういう味

の味が濃くて、やはりいろんな視点とか観点を持った方たちを楽しませることができるだけ、何か深みとか広がりとかいうのを豆殿地区っていうのを私は持っていると思うんですね。そこを豆殿の皆様方も気づかないといけないし、先ほど御提案がありました、外の人方が入って来て、その部分を覚醒させるということも行政側の施策として必要なのだというふうにも感じた次第です。

乱川の上流の拡幅のお話がありました。一部何軒か、何軒ですか、家が道路際にはあります。それがすぐ可能なかどうかわかりませんが、少なくとも分遣所を豆殿に今消防署を設けさせていただいておりますけども、あの県道との分岐点っていいですか、あの部分についての道路については、一定の幅員をきちんととった広い幅員にあそこはしております。それをどのように上流側につないでいくかということの御提案があったものと受けとめて、行政がやれば必ずついてくるよって、今船越議員がおっしゃられましたが、なかなかそうもならない部分もありますから、そのあたりの方向性とかいうものを地域の方向性とかいうものをきちんと私どもも確認しながら、またこちら先ほどの協働隊の話じゃないですけども打ち込みながら、いっしょに走って行くというふうな体制を整えなくてはいけないと思いました。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 乱川の橋の離合場所の分ですね。これは今消防署ができたところ、拡幅しとるところにそれをつくれということじゃなしに、途中なんです、私が言うのは。（「道路」と呼ぶ者あり）道路、道路何というか豆殿の旧支所跡、ここを有効利用しようというわけですから、だからその右てにある川、これ個人の家にはずっと橋がかかっていますよ、あそこは。だからそこら辺で何か所かつくることによって変わりますよという、そこなんです。（発言する者あり）あそこじゃない。（発言する者あり）いやいやそれは雷神社は、家を立ち退きかけんと入らんでしょ。だから、私がさっき言ったのは、美女塚茶屋、美女塚ありますよね、あそこを過ぎた巖原のほうから行ったらこう下り坂になると思いますが、そこから山を突っ切って1本道路をつくったらどうですかというんだ、県道に向かって。あその山低い山やから。（発言する者あり）そこまでいかんけど。だから、そういうことも含めてその豆殿地区の振興策を考えていただきたいということなんです。だから市長、その地域を思えばやれんことでもやれるんです。ぜひそのつもりになって、豆殿地区の南部地区の振興策をしっかりと考えていただきたいと思います。終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで船越洋一君の質問は終わりました。

---

○議長（堀江 政武君） あすも定刻より引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。